

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌芸術の森	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	5,445	(千円)
公演事業	0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	5,445	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パークジャズライブ& ジャズセーバーズ ※	令和2年8月1日 (土)～9日(日)	(1)パークジャズライブ ON WEB 配信期間：8月1日(土)～9日(日) 参加：一般公募による97組 (2)ジャズセーバーズ 参加者数：110人(運営・撮影ボランティア合計)	目標値	入場者： 70,000人、 参加者： 演奏参加者1,500人、ボラ ンティア 100人
		[WEBでの動画配信]		実績値	出演者： 97組 総アクセ ス数： 34,618回
2	ジャズパレード ※	令和2年7月4日 (土)	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	観覧者： 12,000人 参加者 数：260 人
				実績値	—※

3	パークジャズライブコンテスト ※	<p>①無観客ライブ収録 日：令和2年7月24日（金）</p> <p>②配信期間：令和2年8月1日（土）～9日（日）</p>	<p>出演バンド：RS Piano Trio(東京都)、otoshik (form of jazz)(東京都)、Link to Note(札幌市)、立石照(神奈川県)、snack time (札幌市)、GIEN(札幌市)、Wander Around(札幌市)、シュガーK子とSoulMasters(札幌市)</p> <p>映像出演：ジェニー藤田とディキシーバンド(北斗市)、Jass915ビッグアンサンブル(札幌市)</p> <p>MC：タック・ハーシー（ラジオパーソナリティー）</p> <p>審査員：畠山茂房（サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会スペシャルバイザー）、タック・ハーシー、宮越陽一（株式会社宮越屋珈琲 代表取締役）、加瀬谷純二（株式会社エフエムノースウェーブ 常務取締役）、高橋教太（株式会社エフエム北海道 営業本部部长）</p> <p>リモート参加：小林栄（株式会社ブルーノートジャパン 取締役）、三森隆文（株式会社ジャズジャパン 代表取締役）</p>	目標値	参加者 100バンド、来場者400人
		<p>①札幌芸術の森野外ステージ</p>		実績値	参加申込者47バンド 総アクセス数 31,727回
4	デイトタイム親子ジャズ ※	<p>①無観客ライブ収録 日：令和2年11月10日（火）</p> <p>②配信期間：令和2年12月1日～令和3年3月31日</p>	<p>出演者：絵本作家そら & THE NORTHERNLIGHTS ORCHESTRA（ザ・ノーザンライツ・オーケストラ）</p>	目標値	200人
		<p>①札幌芸術の森アートホール</p>		実績値	動画再生回数 284回 （※令和3年1月28日）

5	ユニバーサルジャズライブ ※	令和2年10月3日 (土)	出演者：NEW WAVE 須山恭一 (Sax)、酒本廣継 (Tb)、金澤緋彩 (Tp)、小坂麻由 (Pf)、柳真也 (B)、川合草平 (Ds)、折原寿一グループ 折原寿一 (Gt)、福由樹子 (Pf)、青木務 (B)、酒井颯太 (Ds) ナビゲーター：タック・ハーシー 企画：house of Jazz	目標値	200人
		札幌市民交流プラザ SCARTS コート		実績値	入場者：79人 動画再生回数 1,299回 (※令和3年3月31日)
6	ランチタイムコンサート	令和2年10月4日 (日)、5日(月)、6日 (火)、7日(水)	出演者：10月4日 MIZUHO(ジャズボーカリスト)、10月5日 Link to Note (パークジャズライブコンテストファイナリストバンド)、10月6日小野真知子 TRIO(Vo、B、Pf)、10月7日三上紘子×飛澤良一 DUO(Pf、Gt)	目標値	200人
		札幌市民交流プラザ SCARTS コート		実績値	216人
7	ワンドリンクジャズカフェ ※	令和2年10月5日 (月)、6日(火)	①10月5日 ジャズ×クラシック「ジャズとクラシックの融合」 出演者：秋元恵理子トリオ(秋元恵理子(pf)、笠井尚貴(vib)、釜鈴徹(b)) 箭原顕(MC) ②10月6日 ジャズ×アート 吉田野乃子と進藤冬華「フリースタイル・ピクニック」 出演者：吉田野乃子(a. sax/作曲家)、進藤冬華(アーティスト) 司会：小杉啓文	目標値	100人
		札幌市民交流プラザ SCARTS コート		実績値	109人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

北海道の経済・文化の中心地である札幌市は2006年に創造都市さっぽろ宣言を行い、サッポロ・シティ・ジャズをはじめ、札幌国際芸術祭、PMF など国際的な芸術文化事業が行われている。札幌市文化芸術基本計画においては市民の創造性の育成のための文化芸術における持続的な発展への支援が掲げられており、85%の市民がその重要性を強く認識している。その反面、68%の市民が自ら活動を行っていないと回答しており、主体的に参加する気運を高めることが求められている。

札幌市の南に位置する札幌芸術の森は、音楽・舞台芸術、美術、工芸の各分野において市民の創作・発表の機能を持つ様々な施設と環境を有する札幌市の芸術文化の拠点のひとつであり、特に音楽・舞台芸術の分野では野外ステージや練習室を有するアートホールでプロ、アマチュアを問わず練習や成果発表の会場として活用されている。また、平成19年から札幌芸術の森と実行委員会で開催しているサッポロ・シティ・ジャズでは施設特性を活かした音楽普及事業を展開、新たな札幌市の観光資源として事業を発展させてきた。同時に、より市民の文化活動への参加欲求に訴求するため、芸術の森で培ったノウハウを活用して市内中心部での事業を展開し、広く市民へのジャズ文化の浸透を図るとともに、市民のボランティア組織を運営し、主体的に市民が事業に参加する場を創出した。

市民参加とともに全国から参加者が集い観光事業の側面を持つ「パークジャズライブ」、若手演奏家育成・支援の「パークジャズライブコンテスト」子育て世代対象「デイトタイム親子ジャズ」、高齢者や障がい者をターゲットとする「ユニバーサルジャズライブ」、日中に街中で働く市民が気軽にジャズを親しめる「ランチタイムコンサート」、セミナー形式でジャズの歴史や背景を学ぶ「ワンドリンクジャズカフェ」は、いずれも札幌市の文化行政の方向性に沿った事業である。

なお、新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴いライブでの開催が困難となった「パークジャズライブ」、「パークジャズライブコンテスト」、「デイトタイム親子ジャズ」については、ウェブでの実施に変更して実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

札幌芸術の森では、平成11年に開催したアマチュアとトッププロによるジャズコンサート「サッポロ・ジャズ・フォレスト」を皮切りに、ジャズによる人材育成事業の「札幌ジュニアジャズスクール」、「北海道グループキャンプ」などを実施、平成19年より食と音楽を融合した新しい音楽鑑賞事業「サッポロ・シティ・ジャズ」が誕生した。食と音楽という興行性の高い事業には札幌市の地元企業が参画し、北海道を代表する一大イベントとして経済活動の活性化を促しており、同時に地元の音楽プロデューサーやプランナーをはじめ、音楽業界を担う舞台関係企業や音楽団体、マスコミ企業等との協力体制を構築するなど、札幌市の文化芸術創造活動の中心的役割を担っている。当該事業では、パークジャズライブ等で道外から多くの参加者、来場者が集い、経済効果も大きく、札幌の魅力発信にも繋がっている。また市民ボランティアを組織することにより、ジャズ事業への支援を得ると同時に市民の文化活動への参加意欲を高めている。

このように市民をはじめ、企業、団体が互に関係性を持ちながら音楽を通じて「芸術の担い手」とともに「人」を育み続けている。様々な体験や出会いにより「人」を育むことは、文化芸術による人と地域活性化の礎となるものであり、今後も引き続き、継続していく意義は非常に高いと考えている。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

<参加者数・入場者数・アクセス数>

普及啓発事業における定量的な目標として、「参加者数・入場者数」を設定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ライブでの開催を中止し、代替としてウェブ配信によるオンライン開催とした事業については視聴回数を目安となる「アクセス数」をもって評価数とした。オンライン開催に切り替えた事業の中には、アクセス数が当初の目標入場者数と比較し大きく上回ったものもあり、より広く新たな客層の方々に事業を知ってもらう機会となった。

【ウェブ配信事業】

・ライブ開催が中止となった「パークジャズライブ」ではウェブでの参加を呼びかけ、動画で97組延べ600名超（当初の目標参加者1,500人）の方々がエントリーした。「パークジャズライブコンテスト」の参加は47組（当初の目標参加バンド100組）と、4割以上がオンライン開催に変更となっても参加してもらうことができた。一方、アクセス数では「パークジャズライブ」は66,345回、コンテストは31,727回あり、多くの方に視聴いただくことができた。

・乳幼児を対象とする「デイトタイム親子ジャズ」は別途収録を行い配信。また、身障者の方など日常的に文化活動への参加が困難な人を対象とする「ユニバーサルジャズライブ」ではコロナ感染対策のため定員を50%とし、対象者である身障者の方々が外出困難である見通しもあったことから、ライブとあわせて、後日、無料で動画配信を行い、2事業で1,600回を超えるアクセス数を獲得した。当初の来場者数については、ユニバーサルジャズライブ79人（対目標39% ※定員を80人に変更したため、対定員98%）であった。

【ライブ実施事業】

・「ランチタイムコンサート」は入場数216人（対目標108%）、「ワンドリンクジャズカフェ」は109人（対目標109%）と、ほぼ目標を達成した。

・市民ボランティア「ジャズセーバーズ」は、ライブで実施した複数の普及事業やコロナ禍で急遽企画した普及イベントでも積極的に活動した。参加者数については、ジャズセーバーズ110人（対目標110%）と目標を達成した。

<事業評価の指標>

【20～40代の参加率に対する定量的評価】

・市民参加型イベントである事業番号5、6、7については、来場者数404人のうち283人からアンケートを回収し、20～40代の割合が全体の31%と昨年の21%から10%ほど増加したが、目標の50%には達しなかった。

・開催時間などに影響があると判断されるため、仕事に従事する方々を対象とするプログラムのあり方について、見直したい。

【障がい者の参加率に対する定量的評価】

・新型コロナウイルスの影響により、身体に障害をもつ方々については、多くの来場を促すことはできず、札幌市内の福祉施設等でのクラスターが相次ぎ、アウトリーチ事業も実施に至らなかった。

・ライブの入場者やジャズセーバーズにも僅かながら障がい者の参加があり、目標とする社会的包摂を実現することができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間】

事業実施期間については、参加者や入場者のニーズに極力応える期間や時間帯を考慮し、かつ事業従事者の適切な労務量や超過勤務時間を検討としたものであり、当初の計画どおりに進めることができた。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け新たに実施したウェブ事業については、より長い配信期間望む声が寄せられたため、次回の検討事項とする。

【事業費】

・パークジャズライブについてはライブを中止し、オンラインに変更したことにより、札幌市内 10 数か所のステージ設置費や音響・照明、客席等の経費が減額となった。ウェブ制作に係る費用は発生したが、全体として事業費を縮減する結果となった。

・パークジャズライブコンテストについてもオンライン開催に変更したことに伴い、無観客ライブを収録し配信した。これにより、収入については当初見込まれていた入場料収入は得られず、一方で、経費については舞台製作費のほか、収録に係る経費が発生したが、当初予算の事業費内で執行した。

・ライブで開催した「ユニバーサルジャズライブ」「ワンドリンクジャズカフェ」については、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図るため定員を 50% に設定した。このため予定していた入場料収入が減収となった。

【計画からの変更、対応】

いずれの事業についても、新型コロナウイルス感染症対策のため、計画時より変更（内容、収支）が生じたが、今後、事業を継続していくうえで新しい知見を得ることができた。

オンライン開催に切り替えることにより、パークジャズライブについては全国から 97 組のバンドが動画での演奏出演に参加し、市民参加型事業としての本来の機能を損なうことなく実施することができた。併せて、数多くのバンドから配信素材となる動画提出等のエントリー方法についても、次回のオンライン開催に向けて効率的に進めるフローを導入する契機となった。

総入場者については、いくつかの事業がオンラインとなったことにより、88,929 件の視聴数を得ることができた。実入場者数と合わせ、オンラインを通じて新たな観客層に訴求することができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】芸術の森が有する地域の人材、提携団体、建物設備の資源を最大限活用し、事業の創造性を高めるとともに、信頼性のある事業を展開した。

(1) ジャズ分野におけるキーパーソンの起用

・パークジャズライブ/ 札幌や道内のアマチュアバンドが数多く参加するイベントであることから、複数会場でのプログラムスケジュールの調整を的確に行い、円滑に運営するため、北海道内のアマチュアジャズ界に精通する山口克己氏（ジャストプランニング主宰）をコーディネーターに登用

・ユニバーサルジャズライブ、ジャズカフェ/ 普及ライブの企画には、一般観客を対象とする音楽事業企画の経験と実績が豊富である音楽プロデューサー箭原顕氏（house of jazz 主宰）に登用。魅力的な企画構成により来場者の高い満足度を獲得し、普及に寄与した。

・パークジャズライブコンテスト、ユニバーサルジャズライブ/ 企画の「顔」となる司会 MC として地元の人気ラジオ DJ を起用

・パークジャズライブコンテスト/ 審査員として、札幌の㈱エフエムノースウエーブ、㈱エフエム北海道の役員等に依頼。また、日本のジャズ界関係者として㈱ブルーノートジャパン取締役小林栄氏、ジャズ専門誌・㈱ジャズジャパン代表取締役社長の三森隆文氏にも審査を依頼し、コンテストの信頼性を高めるとともに応募者の動機付けに成功している。

(2) 提携団体の参加による事業実施体制

・パークジャズライブコンテスト/ 審査に地元マスコミ、FM 放送局に参画を依頼。サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会構成団体を含め実施し、厳正な審査体制を確立している。

(3) 創造性のための建物設備の活用

・パークジャズライブコンテスト/ コロナ感染症対策のため無観客ライブ映像を収録。芸術の森の野外ステージの立地環境と設備を活用し、安全な環境で実施した。

・パークジャズライブは会場を札幌市内の公共施設や飲食店等とし、会場の違いを生かしたライブが魅力であることから、オンウエブでもその魅力が伝わるよう工夫した。

【視点2】事業の企画内容、特色について

(1) ライブから映像への変更やネットを生かした企画の工夫

・パークジャズライブ/ コロナにより初のウェブ企画として実施。ライブ中止に伴い申込者に改めて動画の提供を呼びかけ、バンド97組が参加。ネット上で札幌の風景をあわせて楽しめるよう、札幌の観光地（時計台、札幌ドーム等）を追加し、動画の背景としてデザインするとともに、全バンドのプロフィールを掲載、また会場別やジャンルからも選択できるよう工夫するなど、ネット企画であることの利点を生かした。

・パークジャズライブコンテスト/ 無観客ライブ収録画像に各バンドからの PR メッセージを加え配信。視聴者がバンドへの応援コメントとともに投票できるシステムを導入し観客の参加を促進した。審査結果を人気DJ が公式HPで演奏動画とともに発表。数か月後には、賞を受賞したバンドの収録画像がネット上でバズるなどの効果があった。期間中の総視聴数は3万回を超え、多くの視聴者にコンテストを印象づけることができた。

・デイトタイム親子ジャズ/ 乳幼児が対象であったことから安全のためライブを中止し、芸術の森園内の練習室の空間を生かし、ネット用にストーリー仕立ての動画を作成した。

・ユニバーサルジャズライブ 毎年テーマを変え、人気ラジオ DJ タック・ハーシーの軽妙なトークでだれもが楽しめる人気プログラムをライブでの実施とダイジェスト動画で実施した。地元実力2バンドが出演、身障者にも気軽に鑑賞できるよう点字プログラムや車椅子対応に配慮した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

（１）市民が主役になる参加企画の実施

パークジャズライブは参加型事業であり、低廉な参加費で用意された会場のステージで演奏できることから、演奏家からのニーズが高くリピーターも多い。夏の風物詩として、無料で音楽を様々な場所で聞くことができるため、一般市民にも定着しており、ジャズの普及事業として効果を上げている。今年はオンラインでの開催となったが、参加者のクチコミやSNSでも拡散し3万件以上のアクセスがあり、逆にライブでは聞けない他のバンド演奏を好みに合わせて視聴することができるなど、広くジャズの楽しさを伝えることに繋がったと考えている。パークジャズライブでは、市民が聴衆としてだけでなく自らが演奏者として、また、事業を支えるボランティア組織ジャズサーバーズの一員としても参加しており、ジャズ事業が生き生きとした人々の活動を生みだし、継続することにより魅力ある街を作ることに繋がっている。

（２）地域の演奏家を紹介し、市民と繋ぎジャズ文化振興を図る

ユニバーサルジャズやランチタイム、ワンドリンクジャズカフェなどの普及ライブで積極的に実力派ミュージシャンに出演を依頼し、多くの観客に紹介している。近しい存在である地元の演奏家を通してジャズへの敷居を下げ、関心と愛着を市民に持ってもらうことに繋がっている。

（３）創造性のある企画で地域のジャズ文化の振興を図る

各事業の企画は地元のプロデューサーやミュージシャン、コーディネーターの専門知識や人脈を活用し、連携しながら毎年新たな内容を工夫している。新たな客層に向けたもの、他ジャンルと結びつけた新規企画、より興味を深めるものなど、多彩な内容を作ることを目指し、リピーターや支援者を育て、ジャズ文化の振興に努めている。

（４）トータルで効果的に発信する広報

多彩な普及ライブは個別に発信するのではなく、サッポロ・シティ・ジャズという大きなフェスティバル事業に組み入れることにより、通年での広報を通して公式ホームページやSNS、公式ガイドブックやパンフレットなどの紙媒体発行物、地元新聞社やテレビ局、FM局による告知を行い、周知の効果をあげるとともに地元の事業として定着するよう努めている。

上記の取り組みにより、市民を対象に毎年実施している「芸術文化に関する意識調査」で、サッポロ・シティ・ジャズは市民に最も認知されているイベントになっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業を通じて組織活動が持続的に発展したと認められるか

(1) 事業を通じた人材育成

事業運営の様々な過程を通して事業を担当するスタッフの育成を図ることが、多彩な事業を展開する当財団の組織発展に繋がると考えている。

事業課では、小中学生を対象とするジャズスクール、一般市民を対象とするパークジャズライブやボランティア組織セーバーズ、またトップミュージシャンによる最新鋭の舞台機構を駆使したシアタージャズライブなど、各内容や対象者が全く異なる複数の事業を通年で展開している。

経験の浅いスタッフはジャズスクール事業の担当とし、事業制作の基本や段取り、様々な調整事務や演奏現場に慣れさせ、経験を積んだ後に、規模が大きいパークジャズライブやプロミュージシャンを交える事業の担当としている。さらに一定の経験を有したスタッフには、資金調達のため地元企業への営業活動と対応業務、スクールでは他地域に広げるための各地の団体とのネットワークを生かした制作など、より高度なノウハウや能力を得ることができるよう配慮している。

財団では人事は約4年を目途に他部署へ職員を移動させ組織の流れを活発にし、適材適所を図り組織力を強めることを目指している。事業課で多様な現場を担当する経験を通して、様々な相手への対応力、企画力、調整力、また広い視野に基づく思考や判断力等を養うことができるため、他部署でも活躍が期待できる。

事業ノウハウは組織を超え外部団体にも共有している。開講22年目となるジャズスクール事業で蓄積した運営ノウハウは、当施設が主導し設置した道内各地のジャズスクールに対し、合宿や交流事業を通じて引き継がれている。また、連携する大学との間でのインターン生受け入れなど、アートマネジメントの担い手の育成や支援を行っている。

(2) 財務面

事業の継続を図るための財務面での取り組みは、施設の指定管理費用における主催事業への分配が厳しいことから、主な財源を補助金・助成金・協賛金等の外部資金の調達に頼らざるを得ない状況である。

ジャズスクール事業では、広告露出のみの協賛内容ではなく、協賛社名を冠した植樹活動や福祉施設での演奏会の開催など、地域貢献や社会奉仕等の企業CSRとしての活動を内容とする提案を行い、関係性を深めている。また、様々な実施場所でのライブ開催や事業発信力を向上させるなど、支援継続に繋がる魅力アップに努めている。また、海外交流事業のため、交流のある各国の大使館や在札幌領事館、交流団体との情報交換を継続し関係性を保つとともに、文化交流補助金の活用に努めている。

芸術文化施設と民間企業双方のメリットを生み出そうとする協賛営業活動を通して、職員の対応能力を育成することができる。これを継続することにより組織力を高め、組織活動の持続的な発展に繋がると考えている。